会員の皆様にお聞きしました

新南陽の景況感

監修・分析／マサエンジニアリング 代表　中小企業診断士　佐伯　昌之　氏

調査概要

調査対象期間　2021年7月～9月（現状）における景況感と、2021年10月～12月（今後）における景況見通し

調査対象　新南陽地域の企業92社

調査方法　商工会議所経営指導員等職員の巡回相談時に調査票回収

調査項目　「業況」、「売上高」、「採算」、「仕入単価」、「従業員」、「設備」、「資金繰り」

産業全体

業況DIはさらに悪化、ほとんどの業種で業況DIはマイナス値、先行き見通しはプラスに転じる業種は無く、依然として厳しさが続く。

新南陽地域の2021年7月～9月期の業況DIの全産業合計値は▲72.5%となり、前期調査（4月～6月期）よりもマイナス幅が23.8ポイント拡大した。全国では「第165回中小企業景況調査（中小企業基盤整備機構）」全産業の業況DIもマイナス幅が拡大している。

新南陽地域の今後3カ月の先行き見通しは、全産業合計値でさらにマイナス幅が拡大する見通しとなっており、仕入単価と設備はマイナス幅が縮小する数字を示している。全国では「第165回中小企業景況調査」の全産業合計値は、マイナス幅が縮小する見通しとなっている。

全国的には、営業制限、イベント中止等の影響が続く中、客足が遠のく飲食・宿泊などのサービス業や小売業が悪化した。製造業では、半導体不足や東南アジアでの感染拡大を背景とする部材調達難など生産活動への影響を指摘する声が聞かれた。鉄鋼や木材などの原材料価格の上昇、天候不順による野菜価格の上昇が業況の押し下げ要因となるなど、中小企業の景況感は一段と厳しい状況にある。（商工会議所LOBO調査9月）

【卸・小売業】

業況DI、売上高DI、従業員DIが前回の調査に比べてマイナス幅が拡大している。

採算DI、仕入単価DIのマイナス幅は縮小している。資金繰りDIは依然として、▲100%（全事業者が悪いと回答）とされている。

今後3カ月の先行き見通しも、業況DI、売上高DIは拡大、採算DI、仕入単価DIのマイナス幅は縮小する見込み。

県外の緊急事態宣言や県内の移動自粛等、催しが無い状況は消費の低迷が続いていると報告有。

【製造業】

業況DI、売上高DI、採算DI、従業員DIは前回の調査に比べてマイナス幅が拡大している。

仕入単価DI、資金繰りDIは前回と同じで▲100%（全事業者が悪いと回答）。

設備DIは前回と同じで100%（全事業者が不足と回答）。

今後3カ月の先行き見通しは、業況DIのマイナス幅が拡大、採算DIのマイナス幅は縮小する見込み。

部品供給が不足している影響が出ていると報告有。

【サービス業】

業況DI、売上高DI、採算DIが前回の調査に比べてマイナス幅が拡大している。

仕入単価DI、資金繰りDIは前回の調査に比べてマイナス幅が縮小している。

今後3カ月の先行き見通しでは、資金繰りDIのマイナス幅が拡大に転じている。

顧客の高齢化が客数減少の原因になっているとの報告有。

【飲食・宿泊業】

従業員DI、設備DI以外は全ての項目で▲100%（全事業者が悪いと回答）されている。

今後3カ月の先行き見通しも、従業員DI、設備DI以外は全ての項目で▲100%（全事業者が悪いと回答）されている。

営業時間の時短要請や大手企業の自粛等で来店数が激減しているとの報告有。

【建設業】

業況DI、売上高DI、採算DI、資金繰りDIが前回の調査に比べてマイナス幅が拡大している。

従業員DI、設備DI以外は全

DI（景気判断指数）値とは？

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率をしめすものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI＝（増加・好転などの回答の割合）－（減少・悪化などの回答割合）

	全体		卸・小売業		製造業		サービス業		飲食・宿泊業		建設業		運輸業		保険業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
業況	-72.5	-85.4	-76.5	-86.7	-66.7	-100.0	-75.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-20.0	0.0	100.0	-100.0
売上高	-67.7	-88.2	-61.9	-88.2	-100.0	-100.0	-80.0	-81.8	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-25.0	-50.0	100.0	-100.0
採算	-82.1	-84.3	-87.5	-77.8	-100.0	-75.0	-77.8	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-42.9	-33.3	100.0	-100.0
仕入単価	-88.2	-75.0	-77.8	-60.0	-100.0	-100.0	-33.3	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-77.8	-100.0	-100.0	0.0	0.0
従業員	83.3	82.6	0.0	0.0	33.3	33.3	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
設備	63.6	66.7	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	-100.0	-100.0
資金繰り	-71.4	-80.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-50.0	-60.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	50.0	100.0	-100.0	-100.0

※前年比…2021年7月～9月と前年同月の比　見通し…今後3ヶ月（2021年10月～12月）の見通し

●●●●● 会員の声 ●●●●●

【卸・小売業】

◇全国規模で緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発令され、山口県においても移動自粛が継続。しかしながら新規感染者の増加に歯止めがかからず、夏休み、盆の帰省需要が減少した。今後3ヶ月もワクチン接種完了者の増加、感染者の明確な減少がなければ、業況の改善は期待できない。

◇売り上げが10%弱減少していますが社会状況等によるものでは無く顧客、店主の高齢化に起因するものと楽観しています。

◇長引く、個人消費の低迷、さらに強まる節約志向。まったく先が読めません。

【製造業】

◇半導体の供給不足による必要部材の入手困難

【サービス業】

◇コロナの流行によって、先行きが不透明だが人材への投資は続ける予定

◇安いチェーン店にお客を取られて、既存のお客は高年齢化して来店が遠のいている。

◇コロナによる部品入荷遅れや半導体不足による車両入庫の見通しが立たない。

【飲食・宿泊業】

◇県の時短要請で夜の来店が激減、19：00までのアルコールの制限もかなり影響している。街に灯がまったくない。

◇売上が伸びなやむ中で、最低賃金アップはキツい。

◇飲食店はあいかわらず苦しい状況が続く中、最低賃金が上がります。従業員さんの給料が上がるのは良いのですが、会社は、どう対応していけば良いのでしょうか？

【建設業】

◇昨年コロナ禍で営業イベント自粛等の影響が今年に入って出ている。併せて、ウッドショックによる資材の仕入れ価格の高騰も先行きが見通せない。事業継続支援金については助けられている。

◇労働の状況　・人手不足　・事業承継

【運輸業】

◇コロナ禍の現状に於いて新規入社者が皆無の状況につき、御客様の需要に100%応じる事が出来ない事により人員の増加を早急に進める為ハローワーク等への相談を行う。

◇7月、8月と各地の豪雨災害で物流にも混乱が生じた。弊社も業績としては厳しい状況であるが、顧客ニーズに応えて回復に努める。

◇依然として世界的なコロナの混乱の影響があり、特に主要荷主製品の海外輸出物流への影響は大きい。ワクチン接種が推進される中、営業拡大活動の活発化に向けて準備を進めているが、まだ気を緩めることはできず、社内各拠点間の連携が希薄になることもあり、内部統制上も停滞が懸念される。

【保険業】

◇コロナの影響が中小企業にどう及ぼすかによって業況が変わってくると思う。

◇コロナの影響か取引先の採算にバラ付きが見られる様になってきた。良い所と悪い所の差が顕著であり、今後の動向に注意したい。その上で、新たな対応を考えてゆく必要性を感じている。

◇新型コロナウイルスの新規感染者数が県内でも多く発生したが、業務や売上には影響がなかった。訪問を避けて欲しいというお客さんも少なくなった印象がある。

ての項目で▲100%（全事業者が悪いと回答）されている。

今後3カ月の先行き見通しは、仕入単価DIのみマイナス幅は縮小する見込み。

仕入価格の高騰は先行きが見通せない。事業継続支援金は助かるとの報告有。

【運輸業】

売上高DI、採算DIは、前回の調査に比べてマイナス幅が拡大している。

業況DI、従業員DI、設備DI、資金繰りDIのマイナス幅は縮小する見通しとなっている。

今後3カ月の先行き見通しは、売上高DIのみがマイナス幅が拡大。資金繰りDIは100%（全事業者が良いと回答）されている。

今期、次期見通しで資金繰りDIがプラスの業種は運輸業のみ。

経由の値上がり、人員不足、7月、8月の豪雨災害が物流への影響を及ぼしたとの報告有。

【保険業】

業況DI、売上高DI、採算DIは、従業員DIは100%（全事業者が良いと回答）されている。

逆に、設備DI、資金繰りDIは▲100%（全事業者が悪いと回答）。

今後3カ月の先行き見通しは、業況DI、売上高DI、採算DIが100%から▲100%（全事業者が悪いと回答）に転じている。

新型コロナの影響は業務や売上に影響がなかった。訪問を避けてほしいというお客さんは少なくなったとの報告有。